

未来の創造のためにーその5

「方法を学ぶ」

# 真似る理由と学ぶ理由

「現象には必ず理由がある。」

「湯川 学」のことば

— 帝都大学理工学部物理学科教授（?年）

# 京都府連盟の事例紹介からの引用

☆ 会員増強に向けて、初めに組織委員会で決めたことが3点

## 1. 今までにやったことがないことに挑戦する。

「やってみないとわからないことは、いっぱいあります。やる前から否定的な考え方は捨てることにしました。もちろん否定的な意見は理事会でもリーダーからもいくつかありましたが、そういう意見に対して、粘り強く説得しました。」

# 京都府連盟の事例紹介からの引用

## 2. 金魚袋にリーフレットを入れてみんなで配布する。

「たった1つの飴玉と手渡し方の工夫が、リーフレット配布の運命を変えました。」

# 京都府連盟の事例紹介からの引用

## 3. 失敗しても、すぐやめず 3 年は続ける。

「効果はすぐ現れない場合もあります。失敗したら、何がダメだったかを振り返り、もし方法を変えればうまくいくかも！と考えて、またチャレンジすることが大切です。しかし、3年やってだめなものは、すぐやめていいと思います。」

→ PDCAとKPI

# 真似することはとても大切

- 良いと思ったことはすぐに取り入れる — 新しいアイデアが出なければ、まずは真似して行動することから始める方が、スピードが上がる。
  - 良い事例には、その理由があり、再現性がある。
  - 真似ると学ぶの語源は同じ、と言われています。
  - これだと思えるアイデアも、実績と経験には敵いません。
  - 28,000人の経験と知恵を使いましょう。

# 真似することは発想法のひとつ

## analogy

- 類推、類比、当て嵌め、パクリ

「素晴らしいアイデアを盗むことに、我々は恥を感じてはこなかった。」

— 「スティーブ・ジョブズ」のことば（Apple創業者）

# 実践例から学ぶ①



祇園さ>木さんとのコラボ



ハロウィンとのコラボ



小山ロール パティシエ 小山さんとのコラボ

# ①の学びのポイント

- コラボレーションを利用する
  - 新しいことができる — 新しい学びの価値を提供
  - 内容が充実する、面白いことができる
  - 教育的価値や参加する人への価値を高める
  - 信頼感を作ることができる
  - 足りない機能を補うことができる 等
- 新しいことをやる

# アイデアを考えるポイント：コラボレーション

- コラボレーションとは、イノベーション = 新結合
  - イノベーションとは、「技術革新」と言うより「新結合」
    - New Combination = ヨーゼフ・シュンペーターの考え
    - ドイツの経済学者（1883年～1950年）
- アイディアを考えるには、何かとくっつけることを考える

# アイデアを考えるポイント：初めてやる

- 最初にやること、一番にやることの重要性
  - これまでに無いことを最初にできると、とても大きく伸びる。

# 実践例から学ぶ②



## ②の学びのポイント

- 情報は受け取り、さらに見てもらう必要がある
- そのために、情報を見てもらう工夫をする
  - 経験値が最重要
    - 「返報性の原理」を利用していた。
    - 理屈ではなくても、実践と仮説から方法を確立できる。